

ぼうしの詩人賞

あつまれ！ 未来の中也たち！



ぼうしの詩人賞

「ぼうしの詩人賞」は山口市内の小学生・中学生を対象とした創作詩のコンクールです。

市内の小中学生が「中原中也」や「詩」に触れる機会を作るために2016年に創設、帽子をかぶった中也の写真のイメージから「ぼうしの詩人賞」と名付けました。

表彰にあたって、入選者による自作朗読の場を設けているのも、中也が朗読を好み、声を通じて詩作を人々に伝えていたことにちなんでいます。

第9回

応募総数 65 篇

応募校数 17 校

表彰式 2024年12月8日(日)

於 クリエイティブ・スペース

赤れんが

第9回目となる「ぼうしの詩人賞」には、65編（小学校24、中学校41）の詩が寄せられました。応募数は近年と比較して若干少なめとなりましたが、独自の視点に立って書かれたものが多く、ハッとさせられる質の高い作品たちと出会うことができました。

そんな中、今年のぼうしの詩人賞（最優秀賞）は、審査員の満票を得て「ぼくのきいろいぼうし」（附属山口小1年・原田樹）に決定しました。読む側が思わず微笑んでしまうような素朴な描写を通して、音の面白さ、無駄のない構成、表現し過ぎないからこそ伝わってくる感情表現などが詩に織り込まれた、傑作でした。

優秀賞は4編。「かぜ」（附属山口小2年・藤原一華）は、風に色を付けることで様々な景色を読む側に見せてくれて、詩的な冒険に誘ってくれます。「きょうはぴあのはっぴょうかい」（湯田小1年・村上時希）は、音楽用語も心情もすべて平仮名表記にすることで、湧き上がってくる臨場感を味わわせてくれました。「秘密の花園」（附属山口中1年・白石菜々子）は、図書館を花園に喩えることで、日常生活に潜む豊かな現実を思い起こさせてくれました。「わたしの40%」（湯田中2年・田中冴彩）は、敢えて自らを数値化することで、人間存在の愛おしさを浮き彫りにする意欲作。

館長賞は5編でした。「ふしぎなカミナリ」（附属山口小3年・永田柑夏）は、“こわい”と“わくわく”の狭間で揺れながら、自然の神秘へと迫る構成。「おじいちゃん」（附属山口小6年・縄田琉伊）は、今を生きている”おじいちゃん”へ、孫からの切実なメッセージが芯を打ちます。「14から今へ」（湯田中2年・伊藤華）は、数字を効果的に用いることで、部活動という日常風景を別の形で照らす斬新な切り口。「拝啓私の四季へ」（湯田中2年・藤井愛莉）は、日本の四季をリズムカルに描いていて、読み進めると旅に出ているような気分させてくれます。「盆祭り」（湯田中2年・吉富咲那）は、情景描写を通して、祭りの本質とでもいふべき生と死の両面を響かせてくれました。

他にも、惜しくも選には漏れましたが、素晴らしい詩がたくさんありました。”時計”と”とけい”、同じ言葉の表記を変えることで、人間存在のアイデンティティーの成り立ちを垣間見せてくれた「とけい」（附属山口小6年・税所篤人）。素直な夢見る力が溢れている「よるのどうぶつえん」（中央小1年・中嶋睦）。昭和20年の戦争末期を追体験させてくれるような生々しさと祈りに満ちた「空の、キノコ。汚れた、大花火。きこえない音、みえない光。置き土産。」（小郡中2年・浅野陽佑）。揺れ動く己の心をメリーゴーランドになぞらえることで、中学生のリアルを感じさせてくれた「いつか」（湯田中2年・住田隆起）。”奇跡は死んでいる”というドキリとする詩句から希望を見せてくれた「奇跡」（湯田中2年・又野衣織）。詩を書いている自分自身を描写するドキュメント視点の面白さが光る「今」（湯田中2年・山本直美）。

もしかしたら、今回の応募作に書かれている詩の事柄は、すべて作者の身に実際に起きた事実ではないかも知れません。現にそう汲み取れる詩もありました。それでいいんです。いや、それこそが詩の醍醐味です。大切なことは他者や何かに対して想像を巡らせること。相手の気持ちや、描いた設定の感覚を自分のものとして生きて書くこと。そこに事実を超えた、詩の真実があります。

詩を書く前と、書いた後で、目の前が世界が少しでも変わって見えたなら、それはあなたの書いた詩が、現実に力を持った証明です。さあ、もっと、詩を生きてみましょう。

審査員

- 伊藤 豊（山口県小学校長会事務局長・元小学校校長）
桑原 滝弥（詩人）
佐伯 玲子（元山口県立大学非常勤講師・元中学校校長）
福田 百合子（中原中也記念館名誉館長）
中原 豊（中原中也記念館館長）

ぼうしの詩人賞・最優秀賞

入選作品

「ぼくのきいろいぼうし」 原田 樹さん（附属山口小学校 1年）

優秀賞

- | | |
|------------------|----------------------|
| 「かぜ」 | 藤原 一華さん（附属山口小学校 2年） |
| 「きょうはぴあのはっぴょうかい」 | 村上 時希さん（湯田小学校 1年） |
| 「秘密の花園」 | 白石 菜々子さん（附属山口中学校 1年） |
| 「わたしの40%」 | 田中 冴彩さん（湯田中学校 2年） |

館長賞

- | | |
|------------|---------------------|
| 「ふしぎなカミナリ」 | 永田 柑夏さん（附属山口小学校 3年） |
| 「おじいちゃん」 | 縄田 琉伊さん（附属山口小学校 6年） |
| 「14から今へ」 | 伊藤 華さん（湯田中学校 2年） |
| 「拝啓私の四季へ」 | 藤井 愛莉さん（湯田中学校 2年） |
| 「盆祭り」 | 吉富 咲那さん（湯田中学校 2年） |

秀作

附属山口小学校	六年	税所 篤人	「とけい」	<時計>と<とけい>を使い分け、自分にとっての人生を考えた作品。
中央小学校	一年	中嶋 睦	「よるのどうぶつえん」	かわいらしく素直な詩、敬称の使い分けにこだわり。
小郡中学校	二年	浅野 陽佑	「空の、キノコ。 汚れた、大花火。 きこえない音、みえない光、置き土産。」	戦争を客観的でなく、当時の人の視点から描いた点。
湯田中学校	二年	住田 隆起	「いつか」	中学生らしい将来の悩みをメリーゴーランドになぞらえた点。
湯田中学校	二年	又野 衣織	「奇跡」	<奇跡は死んでいる><空への飛び方>というワードセンス。
湯田中学校	二年	山本 直美	「今」	今、詩を書いている自分を描いた視点のおもしろさ。